

集めて
使う
リサイクル

協会報

特定非営利活動法人／集めて使うリサイクル協会

夏号

2004.7
Vol.20

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル TEL.06-6209-7155 FAX.06-6209-6685 (東京連絡事務所) TEL.03-3360-1301 FAX.03-3360-7090

今年度も地球環境基金助成事業を実施

「アルミ付き飲料用紙容器のリサイクル率10%達成を目指すプロジェクト」

当協会は、独立行政法人環境再生保全機構（「環境事業団」が2004年4月より組織・名称変更）が実施する2004年度地球環境基金助成事業の申請を行っていましたが、このほど正式に承認されました。

今年度行うのは、「アルミ付き飲料用紙容器のリサイクル率10%達成を目指すプロジェクト」。2001年度、アルミ付き飲料用紙容器の販売量は9万トンを超え、飲料用紙容器全体の約3割を占めるまでになりました。しかし、そのリサイクルはあまり進んでおらず、工場損紙を含めた発生量全体に対するリサイクル率は7.4%、市場に出回った分については限りなく0%に近いというのが現状です（全国牛乳容器環境協議会調査による）。

そこで当協会では、2005年度までの2年間で、工場損紙を含めた全体のリサイクル率を10%まで引き上げることを当面の目標に掲げ、まず今年度については地方自治体や流通、自動販売機事業者に対するアンケート調査を実施することになりました。そして、この調査により自治体や事業者におけるアルミパック処理の実態を把握した上で、2005年度についてはリサイクル率向上のための具体的な働きかけを行っていく予定です。またこの調査は、施行後10年を目途に予定されている容器包装リサイクル法の見直し作業が本格化しつつある中、アルミパックの法的な位置づけに関して現場の声を吸い上げ、法改正の方向性について提言を行っていく上での有効な資料になると考えています。

地方自治体に対する調査については、全国約700の市を対象に実施し、回答のあった市の中で特にこの問題に関心の高いところについては、ヒアリング調査も行う予定にしています。アルミパックのリサイクルについて何らかの取り組みを行っている自治体やスーパーなどの取り組みについて、情報を収集しております。皆様の地域の情報を、ぜひ当協会までお寄せください。



7/21・22 第6回酒パック・リサイクリング問題研究会 「エコ酒屋」の先進地・宮崎で開催

印刷工業会液体カートン部会環境委員会が主催し、当協会が事務局を担当している「酒パック・リサイクリング問題研究会」の第6回会合が、この7月21（水）・22（木）の両日開催されることになりました。今回は、21日に宮崎市で研究会及び懇親会を開催し、翌22日には大分県に移動して製紙メーカー及び酒造メーカーを見学するというスケジュールです。

宮崎県は、小売酒販組合が率先して「エコ酒屋」の取り組みを推進し、6月末日現在で48店舗が「エコ酒屋」として活動している、「酒パックリサイクルの先進地」です。エコ酒屋登録店舗は全国で132店を数えま（詳細は次ページ）が、その3分の1以上を宮崎県が占める計算です。また、地元には多数の焼酎メーカーがあり、この問題に対する関心も高い地域でもあります。

この会議には、熊本国税局からも出席が予定されています。また、東京や大阪の会議には遠くて参加が難しい九州の酒造メーカーにも多数参加していただき、率直な意見交換や行流ができればと考えています。

<スケジュール>

- 7月21日（水）
研究会 13時30分～15時30分
懇親会 15時30分～17時
（会場はいずれもホテル・センチュリー宮崎）
- 7月22日（木）
大分製紙(株)見学 9時～11時
三和酒類(株)見学
13時30分～15時30分

新江州情報館eプラザをオープン

新江州 (滋賀県東浅井郡びわ町 びわ工業団地、電話 0749-72-8100) は昭和 22 年の創業。もともと紙製品・段ボールの製造販売および包装産業資材の取り扱いを主力とし、本社がある滋賀県を中心に全国的な展開をしています。

近年は住宅分野の養生材やハウスラップといった住宅資材分野で大きく事業を拡大し、さらに広範囲な事業展開を図り、デザイン・情報関連事業・環境・バイオ関連といった新規分野への取り組みも活発化させています。

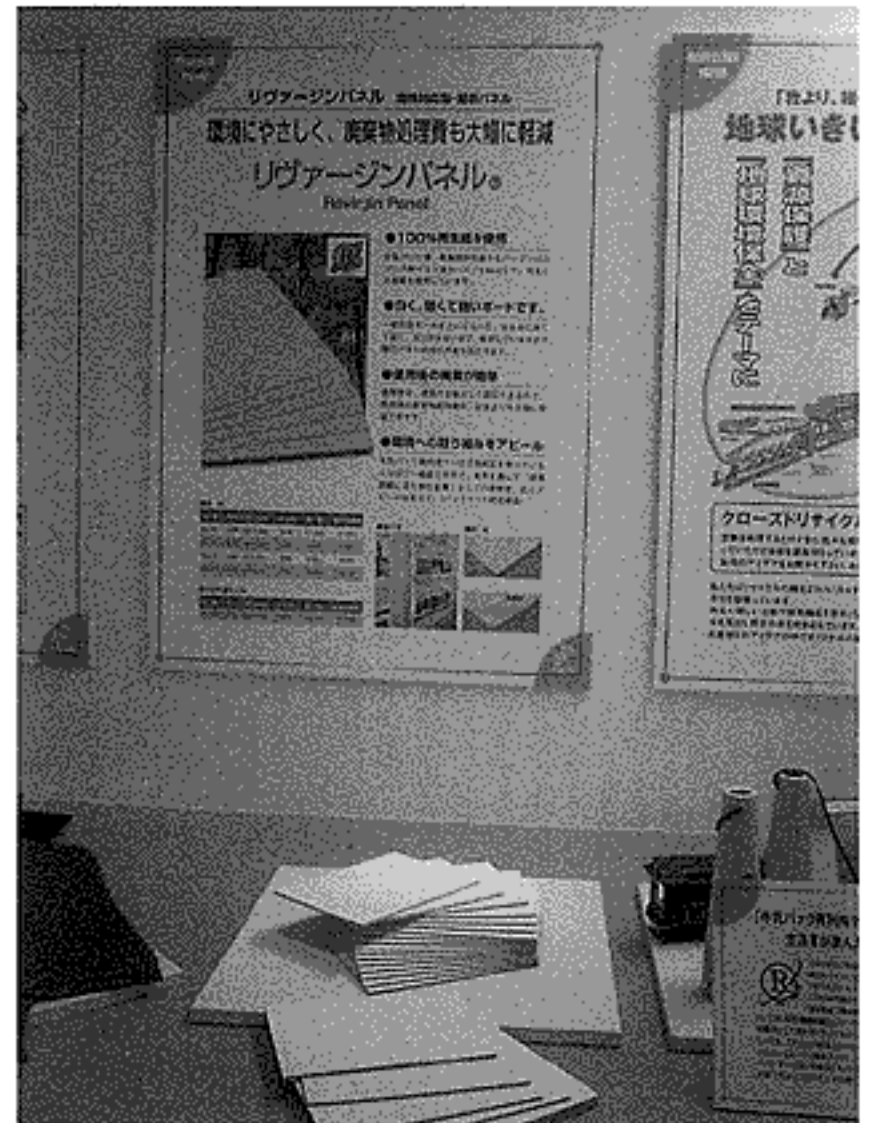
そんな同社の多角的な事業展開を象徴する場所が、この 5 月 1 日、本社内にオープンした「新江州情報館 e プラザ」です。500 平方メートル余りの展示場には、同社が手がける包装資材から住宅資材・環境・バイオまで実に幅広い製品が展示されています。同社の多様な事業展開を顧客に直接見てもらうことで、新たなビジネスチャンス掘り起こそうという狙いでできたものです。

資源循環型事業を積極的に提案

このなかでも、特に力を入れていこうというのが環境事業です。同社では「出口でお困りの企業のお手伝いがしたい」「多様な事業分野を生かし、本来は捨てられるはずのモノを再利用するという資源循環型事業の提案を進めていく」と語っています。実際にいくつかの企業に対して、その企業が排出する廃材を包装資材などとして再利用する提案をおこなってきました。

新江州の示す企業姿勢の象徴が、「新江州情報館 e プラザ」全館の展示に使用されているリヴァージンパネルです。これは環境対応型の紙製パネルで、これまでは「循環型社会を目指しましょう」・・・といった展示パネルそのものが、展示が終わった時点で廃棄されてしまうという矛盾を抱えていました。ここに着目して、牛乳パック等の紙製飲料容器を再製品化したものです。6 月 15 日から 3 日間、大阪 ATC ホールで開催されたサインエキスポ 2004 でも広くサイン業界の方々に紹介されました。展示用のパネル以外でのチャネル開発やさまざまな分野での用途展開中です。

環境先進県といわれる滋賀県に本社を置く新江州は、環境保護という企業姿勢を加味し、環境対応商材はトータルでのコストメリットを訴求できる、ということで今後も積極的な提案活動を続ける構えです。



会員募集中!

入会金は不要です。循環型社会構築を目指す私達の仲間になってください!

会員区分	年会費 (非課税)
団体	正会員 60,000 円
	賛助会員 10,000 円
個人	正会員 6,000 円
	賛助会員 1,000 円

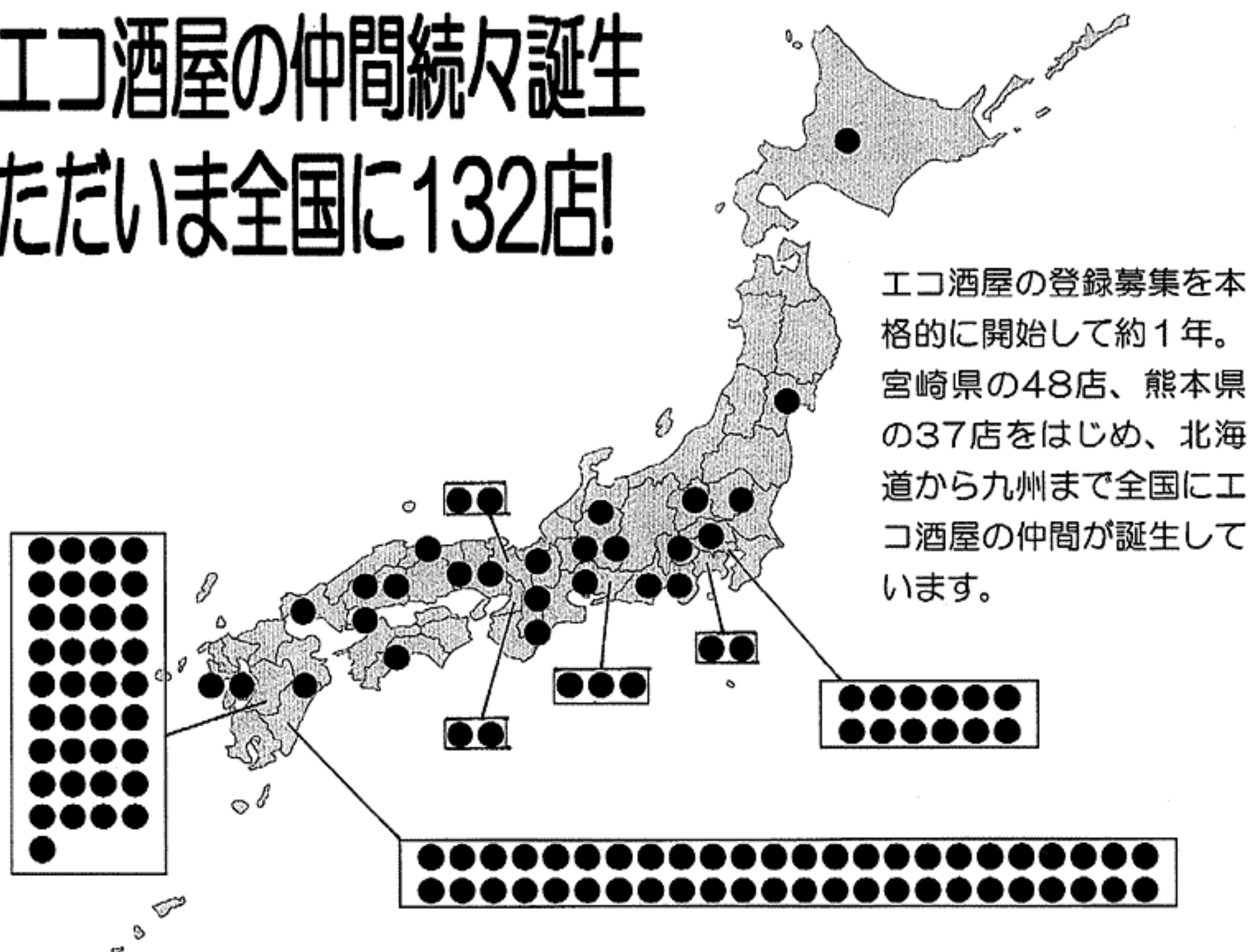
当協会ホームページでは、会員企業の参加によるリサイクル商品の販売も行っております。(お買い得の月替わり SALE 商品もあり!) どうぞご利用ください。

<http://www.r-kyokai.org/>

酒パック・リサイクル最前線

地域のリサイクル・ステーション「エコ酒屋」募集中！

エコ酒屋の仲間続々誕生 ただいま全国に132店!



●「エコ酒屋」とは？

酒パックの回収拠点となっていたただける酒販店を、当協会が「エコ酒屋」として登録し、さまざまな支援を行います。「エコ酒屋」登録店には、酒パック回収ボックスやお客様向けのチラシをお送りします。また、「エコ酒屋」になると、100%再生紙トイレットペーパー「コアレス」の販売を行うことができます。再生資源を「集めること」と、その再生資源からつくられた商品を販売して「使っていただくこと」、この両面があって初めてリサイクルの輪が完結することになり、その中心的な役割を担うのが「エコ酒屋」です。

●「エコ酒屋」になるには？

当協会にご連絡いただければ、「エコ酒屋」に関する各種資料とともに申し込み用紙をお送りいたします。この用紙に必要事項をご記入いただき、当協会あてにお送りいただければ、登録手続きをさせていただきます。登録に関しても、登録後の活動に関しても、原則として費用はいつさいかかりません。

●集めた酒パックはどうなるの？

「エコ酒屋」においてある程度までストックしていただき、量がまとまった段階で当協会が回収の手配を行うか、もしくは「エコ酒屋」から直接最寄りの製紙メーカーへ宅配便で送っていただき、料金については後日精算させていただくという方法をとります。

製紙メーカーに送られたアルミパックは、ポリエチレンやアルミ箔を分離してパルプに戻された後、牛乳パックやOA用紙など他の上級古紙からつくられたパルプと一緒に、トイレットペーパーやティッシュペーパーなどの家庭紙、あるいはファイルや紙皿、紙トレイ、うちわなどの板紙系紙製品に再生されます。

●酒パックはどの製紙メーカーも受け入れているの？

酒パックを製紙原料として使用できる製紙メーカーは、現在のところまだ限られており、全国で数社しかありません。したがって、これらの製紙メーカーに酒パックが効率的に集まるような仕組みを整えることが必要です。

集めて使うということについて

集めて使うリサイクル協会 理事 大塚 豊

■コンタミネーションにどう対応するか

「集めて使う」という事は、使う事を前提に集めるという事であり、ただ集めれば良いという考えではありません。集めてから考えるのではなく、考えて集めるという段階に、現代のリサイクルは来ています。

集める場合の問題は、いかに集めるかと、コンタミネーション（汚染）にどのように対応するのかの二つの大きな問題があります。

コンタミネーションは、よごれていて当然として扱うのか、汚さないように出してもらうのかをわきまえて、集めた後の再商品化のシステムを用意しなければなりません。どちらにしても、予め意図しない中途半端の対応であれば、経済的なロスを生んでしまい、せっかく作ったシステムは破たんしてしまいます。

■自治体の分別システムを統一すべき

今後、問題になると思われる複合素材等の難処理物の処理は、個々ローカルでは対応しきれず、どうしても何処か一ヶ所に設備し、全国規模のネットワークで結ぶ事が必要となります。

こういった事を考えると、現在バラバラの、自治体の分別のシステムを、早い内に、有る程度統一しないと、生活者に混乱と不信を生み、再商品化システム構築に支障が出始めます。環境省は、ゴミの有料化の指針を17年容リ法見直し前に出すより、集め方に注目し、自治体への分別の統一的なガイドラインの指導を先にすべきだったのではないのでしょうか。

コンタミネーションがなければ、廃棄物は素晴らしい原料になることは、すでに、アルミやガラスやPETで証明されています。それには、わけやすく処理しやすい、パッケージや製品を、あらかじめ設計すべきであり、先に述べた、統一した分かりやすい排出方法をさらに示す等のガイドラインの整備が望まれます。

■リサイクルシステムの維持管理が重要

また、リサイクルのシステムが構築出来ても、それを維持管理するノウハウが必要です。数々の提案は、新たなシステムの構築提案であって、そのシステムの管理維持にまで言及されている提案を見ないように思います。リサイクルは、社会の変化にシステムを適合させて行く、フレキシブルな管理が重要で、17年を控え多くの自治体の硬直したシステムの見直しの時期に来ていると思われれます。今後は、一つの素材に一つのシステムではなく、共通のパイプを作る事が経済的なシステム、すなわちネットワークの共用が重要になってくるでしょう。

■紙は大スケールのリサイクル・サークルを描ける素材

紙には興味深い点があります。石油などの化石燃料や鉄やアルミ等の鉱物に由来する資源は、「枯渇へのカウントダウンの先延ばし」しか方策がありませんが、紙の原料の森林などは、植林等により再生可能で、最も、スケールの大きなリサイクルのサークルを描ける素材という事です。

この大きなサークルに、より注目して行きたいと思います。

